

東京工業大学環境報告書の外部監査報告

京都大学 酒井伸一

全体講評

総構成人員1.3万人強を擁し、日本をリードする総合理工系大学の環境報告書としては、その環境管理取り組み内容や先端の環境研究紹介などの側面から優れた内容となっています。つまり、総合大学として配慮すべき多様な環境問題に対してバランスの取れた取り組みを進めており、その記述は具体的です。下記の諸点に対する一層の取り組みとともに、今後は、学内環境管理活動や先端研究の知的蓄積を基盤に、環境マインドに溢れた理工系人材を育成するとともに、理工学研究開発中核主体として一層の科学のおよび社会的貢献を望みます。

炭酸ガス削減への取り組みの可視化

教育研究機関の炭酸ガス削減への取り組みは、待ったなしになりつつあります。具体的に削減計画を策定し、その実行を進めていくことは重要で、東京工業大学においても「環境マネジメントの目標と行動（9頁）」において、大岡山キャンパスにおいては2010年度に温室効果ガス総排出量を16,550tにすることを目標、すずかけ台キャンパスにおいては、2009年度に温室効果ガス総排出量の原単位排出量を床面積あたり3%以上削減することを目標、と宣言されていることは適切な方向にあるでしょう。その一方、現状の温室効果ガス排出量は環境報告書に明記されていないこと、その過去からの経緯を含めた長期の時系列動向も明記されていないことでは、目標の意味や現状の立ち位置は社会に伝わりません。何より、学内においても温室効果ガスの計量とその情報を可視化して伝えることが望まれます。構成員の環境配慮行動を促すうえでの基礎情報となれば、先端の学理を学び、先端の研究を進めている構成員の方々は、自然な環境配慮行動を進めていくものと思われま

更なる飛躍の期待

現在人類は、環境問題を契機に大きな社会転換を余儀なくされる時期にあります。こうした時期に、東工大蔵前会館におけるTokyo Tech Frontと称してCO₂削減を探る新しいエネルギーシステム試行を進めておられることは時機を得た取り組みです。燃料電池や太陽電池、水素や電力の貯蔵技術も組み合わせた複合設備とのことで、近い時期に、その性能や技術開発成果の報告がなされることを期待します。